

召命黙想会に参加して  
ミカエル 渋谷 健



三日間のうち初日だけ(1泊)ではありましたが初めて召命黙想会に参加させていただきました。

黙想への心構えが学べるようにと当日勤め先の與賀田チャブレンよりお借りした「聖書の読み方・レクチョ・デイヴィナ」(来住英俊著)という本を読みました。聖書を反芻してゆっくり読むこと、自分事として味わうことはそれ自体が一つの祈りで、黙想になると書かれており、自分も黙想会の中で聖書を通して生活を見つめなおそうと思いま

した。

会場の黙想の家では、主教様によるランベス会議の報告や芳我司祭による「聖霊が働き始める時」という主題でお話がありました。

教会とは本来人間の意思や考えを超えた方(聖霊なる神)主イエスのみ旨に聞き従い歩むことが大事であることマルタとマリア(ルカ十章三八節)を通して学びました。この箇所はいつもマルタに自分を重ね合わせて苦い気持ちになるのですが、自分もマリアのように主イエスと共に歩むものに今一度なろうと思えました。

その後夕の礼拝まで各人で黙想の時間があり、縁側で福音書を読みました。普段世俗的なものや考えに触れすぎて自分の中にある罪を見つめなおすには短かったと感じましたが、霊的に充実した時間と与ることができました。

このような貴重な機会を与えてくださった教区の方々へ感謝申し上げます。

(姫路顕栄教会信徒)

2023年  
日本聖公会宣教協議会  
ぶどうの枝だより ④



「私はぶどうの木、あなたがたはその枝である。人が私につながって、私もその人につながって、私もその人につなげていけば、その人は豊かに実を結ぶ。私を離れては、あなたがたは何もできないからである。」(聖書協会共同訳)

テーマは2012年の宣教協議会「いのち、尊厳限りなもの」を引き継いでいます。2023年の宣教協議会で大切にしたいことは「となりびと」というキーワードです。イエス様は「サマリア人のたとえ」で「あなたの都合ではなく、あなたが出会わされた人のとなりびとになる」ことを求められました。本協議会では、「あなたは誰のとなりびとになりますか」という問いを深めていきたいと思えます。

主題聖句に込められた思いは、「まことのぶどうの木」であるイエス様とつながること、そしてそこから伸びていく様々なぶどうの枝の集まりとなることです。これは宣教協議会のイメージでもあり、協議会

に関わる一人ひとりが、「ぶどうの木」であるイエス様を通じて「となりびと」になっていくことを願っています。

「ぶどうの枝協議会」拡大実行委員会が開催されました。

8月22日(月)から23日(火)インマヌエル新生教会(東京教区)を会場に、武藤首座主教、各教区の宣教担当、管区諸委員会の代表者と実行委員会が集まりました。開会礼拝には実行委員長の磯主教が説教をし、続く午前のプログラムは西原主教による「ランベス会議報告」と、実行委員による「宣教協議会実行委員会のこれまでの歩み」の発題で始まりました。午後は原発問題プロジェクト長の長谷川清純司祭による発題、そして会場となったインマヌエル新生教会の牧師の卓司祭と3名の信徒の方から、新しい教会へと生まれ変わるまでの出来事やそれぞれの思いを伺いました。その後、グループの分かち合い、全体の分かち合いを続け、来年の宣教協議会のプログラムについて協議しました。短い日程でしたが、様々な具体案が出され、宣教協議会に向けてたくさん「ぶどうの実」を頂いた有意義な時となりました。

(東北教区司祭 越山哲也)

日本聖公会宣教協議会実行委員会より、今回は2023年の宣教協議会テーマと主題聖句についてお知らせいたします。また、8月22日(月)から23日(火)に開催された「ぶどうの枝協議会」についてご報告いたします。

2023年日本聖公会宣教協議会テーマと主題聖句

「テーマ」「いのち、尊厳限りなもの」となりびとになるために」

「主題聖句」ヨハネによる福音書15章5節